



2008年7月6日

いま起きつつあること…

高橋哲哉さんの
平和講演会から



その
5

引きつづき、高橋哲哉先生のお話の要旨を紹介します（次号で終わる予定です）。

戦争に反対したひとりの人

先生は、講演の最後に戦時中に『暗黒日記』を著しました。この人は、戦前にリベラリズムの立場から軍国主義反対を唱え、戦時中は言論弾圧が激しくなって公に発言ができなくなつて、代わりに日記で自分の考えを書いてい

ました。彼は、戦争はまつたくおろかな選択で、日本は必ず惨憺たる犠牲をもつて敗北に終わるだろうと見通していました。そしてもし戦争が終わつて自分が生き延びることができるたら、自分は戦争を絶滅するために残りの人生を捧げようと考えていた人です。彼は残念ながら1945年に敗戦を待たずに亡くなっていますが、彼が亡くなつた1945年、敗戦の年の1月1日の日記を紹介したいと思います（以下、橋川文三編『暗黒日記』3、ちくま学芸文庫からの引用）。

『暗黒日記』から

『昨夜から今晩にかけ三回空襲警報なる。焼夷弾を落としたところもある。一晩中寝られない有様だ。僕の如きは構わず眠つてしまつが、それにしても危ない。配給のお餅を食つて、お出度うをいつと

矢張り新年らしくなる。曇天。日本国民は、今、初めて「戦争」を経験している。戦争は文化の母だと「百年戦争」などかいって戦争を讃美してきたのは長いことだった。僕が迫害されたのは「反戦主義」だという理由からであつた。戦争は、そんなに遊山に行くようなものなのか。それ

だ。だが、それでも彼等が、ほんとに戦争に懲りるかどうかは疑問だ。結果はむしろ反対なのではないかと思う。彼等は第一、戦争は不可避なものだと考えている。第二に彼らは戦争の英雄的であることに対する知識がない。知識の欠乏は驚くべきものがある。

日本国民は初めて戦争を経験している

彼は、日本国民は今、戦争を初めて経験していると言っています。これはどうしてでしょうか。1945年ですから、もうすでに戦争が始まつて5年目です。満州事変から数えるともう15年、日清日露を含めればもうずっと戦争をしてきているのです。

この「戦争」を「戦場」と置き換えると意味が分かると思いますが、長い戦争の時代、日本国民のほとんどは戦場を経験したことがないのです。なぜなら日本の軍隊は常に日本之外で戦つて来たから。日



2008年7月6日

いま起きつあること…

本が攻め込まれた」とはこの時点ではなく、国民のほとんどは戦場を知らなかつた。そういう中で、負けても勝つたと言われる報道がなされる中で、国内では勇ましい言論が支配してました。戦争は文化を生み出す母だと、百年戦争を戦えるとか……。自分たちは戦場に出ませんから、日本は勝つた、勝つたと言つて、戦争讃美の言説が支配的だつた。そういう中で清沢は反戦主義だと書いて迫害された。ところが今、国民は自分たちの頭の上から爆弾が降つてきて、逃げ惑う経験をしている。初めて戦場を経験している。

一見、平和な日常の中で日本はすでに戦争に踏み込んでゐるのではないかと最初に申し上げましたが、まさに一見平和な日常が国内で続いている。それでも国家が戦争を行ない、人を殺すことには加担していることじがあるといつので

す。かつてもさうだつたといふことを、私たちは真剣に考え直す必要があるのです。

清沢の予言が当たらぬいために

清沢は、日本国民が初めて戦争を知り始めていふと言ひながら、それでも国民が本当にに戦争に懲りるかどうか疑問だという不気味な予言をしています。理由は3つある。これらの中はいずれも、現在でも成り立ちそうな理由です。戦争は避けられないと考

えられる人がどうも増えているよ

私たちとは、これから憲法9

うなので、それで9条が危うくなつてゐる。戦争が英雄的である」とに酔つ。先ほどの安倍元首相の文章なんかは、戦争を美化してゐる。そういう言説がどんどんと語られるようになつてゐる。国際的知識がないというのは、さすがに昔と今は違つと思ひます

る。それで、それで9条が危うくなつてゐる。戦争が英雄的である」とに酔つ。先ほどの安倍元首相の文章なんかは、戦争を美化してゐる。そういう言説がどんどんと語られるようになつてゐる。国際的知識がないというのは、さすがに昔と今は違つと思ひます

る。それで、それで9条が危うくなつてゐる。戦争が英雄的である」とに酔つ。先ほどの安倍元首相の文章なんかは、戦争を美化してゐる。そういう言説がどんどんと語られるようになつてゐる。国際的知識がないというのは、さすがに昔と今は違つと思ひます